

研究代表者	所属学系・職名 心理学系（旧 人間・心理学系）教授 氏 名 青 木 真 理
研究課題	発達障害者の就業支援 —デンマークの自閉症スペクトラム者への IT 教育の試みに学ぶ— Job finding support for the young people with developmental disorders - learning from the IT training systems for ASD in Denmark -
成果の概要	<p>1. デンマークでの訪問調査</p> <p>申請者らは2014年9月にデンマークに渡り、発達障害者の就業支援に係る機関・施設を訪問し、聞き取り調査を行った。</p> <p>① デンマーク AspIT 訪問調査</p> <p>コペンハーゲンに新しくつくられた AspIT を訪問し、施設見学とスタッフへの聞き取り調査を行った。ここでは、2012年に申請者らが訪問調査したコペンハーゲンの TEC（技術専門学校）内に設けられた AspIT の閉鎖の経緯、AspIT の現時点の成果、今後の計画をきくことを主な目的とした。</p> <p>2006年に小さな町で試行的に始まった AspIT は、2007年施行された特別ニーズをもつ青年の教育の法律（STU 法）に対応し、有力な STU プロバイダー（特別ニーズを持つ青年への教育を提供する機関）として10年間でデンマーク10か所、ドイツに1か所学校を設けるまでに成長した。AspIT は、コンピュータの仕組みが ASD（自閉症スペクトラム障害）の人たちの発達特性にフィットすることを最大限に活用して教育を行い、就労につなげようとするプログラム・コースである。2014年現在、ほぼ80%という非常に高い就労率をあげている。</p> <p>高い就労率という成果の要因は、ASD の特性を生かしたプログラムの組み方、インターンシップの重視である。また AspIT と実習協力企業の緊密な協力関係も重要で、それを実現するためには AspIT 側のマネジメントスタッフと企業側チューターが連携して実習生をサポートしている。</p> <p>AspIT 創始者グループのプログラムをベースにしながらか独自の社会性促進プログラムを提供して独自性を示していたコペンハーゲンの TEC の AspIT が2013年夏をもって閉鎖したのは、実にこの就労率が目標に達しなかったためであった。</p> <p>創始者グループはコペンハーゲンに新たな AspIT を設立し、2014年夏はそのスタートの時期であった。</p> <p>AspIT 創始者グループはまた記憶力が強く語学に強みをもつ ASD の青年を対象に AspIN というコースを新たに始動させていることも明らかになった。</p> <p>② 若者ガイダンスセンター訪問調査</p> <p>コペンハーゲン西地区の若者ガイダンスセンターを訪問し義務教育後の職業教育・訓練コース（VET）の改革について聞き取り調査を行った（申請者らは</p>

成果の概要	<p>10年ほど前からこのセンターをたびたび訪問してデンマークの若者施策、ドロップアウトした若者の支援などについての聞き取り調査を行っている)。</p> <p>センター所長によればこの改革の目的は、VETの質保証である。センターが位置するコペンハーゲンの西地区は移民も多く生徒の学業成績の問題を抱えている。そうした状況を背景に、本センターでは学業成績のよくない子どもたちの学業および就業への準備状態の向上を、この改革を通じて目指しているとのことであった。</p> <p>2. 成果の発表</p> <p>①については論文としてまとめ、『福島大学地域創造』第27巻第1号に寄稿する予定である。②についても別稿にて発表する予定である。</p> <p>3. 今後の研究計画</p> <p>科学研究費において基盤研究(C)(一般)(H27~H29)「発達障害者の就労支援—デンマークの自閉症スペクトラム者へのIT教育の試みに学ぶ—」と題する研究計画で科学研究費を申請し、認められた。上記の研究をさらに発展させ、以下の三つの課題に取り組みたい。</p> <p>第一はAspITのより詳細な実態を明らかにすることである。高い成果を生み出す要因のひとつにインターンシップがあり、その成功の鍵は生徒、マネジメント担当スタッフ、企業チューターの三者の連携であるとスタッフが語っている。これら三者への聞き取りから連携の実態を明らかにし、企業にとってのインターンシップ受け入れの成果についても探りたい。また記憶力の高さから語学習得に高いパフォーマンスを示すASDの若者を対象としたAspINというコースも始まっていることを知ったので、このAspINをも訪問調査したい。</p> <p>第二にデンマークの発達障害者就労支援の仕組み、成果、課題を明らかにする。そのためにSTUプロバイダー、行政(コムーネ)のSTU委員会、若者ガイダンスセンター、ジョブセンターを訪問調査する。</p> <p>第三に日本国内で発達障害者就労支援の新しい仕組みをつくる可能性を探る。</p> <p>第四に、デンマークの教育改革が特別支援教育にもたらす影響の探究を挙げる。AspITで学ぶ青年にインタビューしたところその多くは義務教育学校で不応状態に陥っていた。AspITスタッフは政府の低コスト化政策が、環境整備が不十分なままインクルージョン教育を進めることを危惧していた。そこで、特別支援学校を訪問して教育改革について意見を聞きたい。あわせて障害児・者の就労支援の現状と課題についても聞き取りを行う。</p>
-------	---